

今回は、謎解きイベント「本町探偵団」の報告です。

◇ 関市本町通り商店街で、地域活性化に関わる活動にチャレンジしました！

日時：2021年5月1日（土）・2日（日）10:00～15:00

場所：関市本町通り6丁目 本町ハウス

参加者：本町探偵団（本校生徒有志、2年3名・1年1名）

連携先：本町商店街連合会 関市市民活動センター

◇ イベントの内容と生徒の感想

私たちは、「本町探偵団」として、コロナ禍でも家族で楽しめるイベントを開催することを目的に、本町商店街での謎解きイベントを春休みに初めて開催しました。

自分たちで「謎」（クイズ）を考え、商店街の8店舗にそれを置かせてもらい、参加者に地図を渡して、本町中を歩いてもらいます。最後に指定した場所に戻ってきてもらうと景品をお渡しします。そのイベントが好評だったため、今回は本町のイベント「ほんまちマルシェ 花・花」の企画として5月1日、2日にも再びやらせていただきました。



◆受付の仕事をするなかで私が気を付けたことは、わかりやすく説明をすることと、目線を合わせる事です。小学生の子の参加が多かったので、威圧しないようにしゃがんでルール説明などをしたことです。また、ただ淡々と説明をされてもつまらないかなと思ったので、テンションを高く、キャラクターの真似などをして話すことで参加者に楽しんでもらうことを心掛けました。



受付をしていない時には、ヒントを出したり、困っている人に声をかけたりするために実際に本町商店街を巡回しました。今回は前回の反省を生かして、スタッフ証を作って声をかけてもらいやすくしたり、謎のヒントを作ってなるべく多くの人に解いてもらえるように工夫をしたりしました。良かったことは、地図に謎を置かせてもらったお店の情報をつけたことです。これにより、本町のお店について知ってもらうことが出来たと思います。参加者の中には、それを見てお店の中に入ってくれた人もいたみたいです！このように、このイベントが本町商店街の活性化にもつながったなと思い、私はそれがとても嬉しいです。

イベント中、商店街のお店の方が差し入れを下さったり、優しい声掛けを私たちに下さったりして、地元商店街との交流もすることが出来ました。また、参加者の方の中には、「名前は知っているけど、入ったことのないお店にこのイベントのおかげで入ることが出来た。バインダー（地図を挟むために参加者にお渡しする）を持っているだけでお店の人に声をかけてもらえて、とても良いイベントだと思う」と言ってくれる人もいて、やってよかったなど、温かな気持ちになりました。（2年 繁ユリ子）

◆私はこの二日間の謎解きイベントにとっても楽しんで参加することができました。前回のイベントより多くの人たちに来てくれて、楽しかったと言われて嬉しかったです！計画や準備を通して、学校じゃ知らないことをたくさん教わったのでこれからに生かしていきたいです。

(2年 加藤姫奈)

◆たくさんの人に参加していただけたこと、謎を通して関市の伝統を伝えられたことが嬉しかったです。学んだことを生かしてより良いイベントにしていきたいと思います。

(2年 兼村古都実)

◆僕はこの謎解きイベントで地域の魅力にあらためて感じるすることができました。そして何より、来てくれた人の「楽しかった」や「面白かった」という声が聞けたのが嬉しかったです。

このことを今後の探究活動に活かしたいです。(1年 後藤和真)

◇ ご支援いただいた関市市民活動センターから

IOCAfE by masuyaの店長 冬頭さんからマルシェへの協力依頼をいただいたのは、3月末の第1回本町謎解きイベントを終えてまもなくでした。準備に1か月ほどしかないこと、今後も活動を継続するかどうか決めていなかったこともあり、参加できるかな？と思いながら、本町探偵団のメンバーに連絡したところ全員が快諾！主催者の方にも大変喜んでいただきました。

時間がないこともあり、同じ謎を使っただけの開催でも、とメンバーにはお伝えしましたが、新メンバー含めみんな頑張って謎を考えてくれ、5つの新たな謎を生み出してくれました。また、前回の反省を生かしたヒントの掲示や、スタッフとしての見回り方法など、メンバーからアイデアが出てきました。また、当日も、準備から運営まで、堂々とした様子。前回からパワーアップした姿に頼もしさを感じました。(担当：長瀬恵理子さん)



◇ ご依頼いただいた関市本町商店街連合会から

関市へ、本町へ、37年ぶりに戻ってきて現在本町1丁目でIOCAfEをやっている冬頭です。私の住む本町商店街は、子供の頃は買い物をする人々が街を行き交い、歩道に人があふれる街でした。現在シャッターが閉まってしまっているお店も全部店をやられていて、本町に来れば何でも揃うと言われるショッピングセンターのような本町商店街でした。人に聞くとところによると、これだけ長い商店街は日本で唯一だとか。

そんな本町商店街を子供の頃みたいにたくさんの人が歩いて買い物を楽しむ場所にした！これが私の思いです。

去年、コロナ渦のなか、本町BASEという関市が作ってくれた市民の場所ができ、そして、関市の情報誌「ぶうめらん」さんも、本町通りに移転されてきました。本町商店街の中にも若い人たちが新しい店をあちこちにオープンされていて、「このチャンスに本町通りに新しい時代の方が流れてくれるようなことをしたい！」と考え、まずは自分のお店で仲間を集めてマルシェをやろうと思いました。

3月。ちょうどコロナが少しおさまっていて、人々が外に出掛けたい気持ちになっていた頃計画は始まりました。

食品会社の社長さん、雑貨を販売して下さる方、ワークショップをやって下さる方、フリーマーケットをやって下さる方、協賛金をだして下さる方など、あちこちに声をかけると、やはり何かコロナでなにもできないストレスがたまっているのか、すぐにOKをいただき賛同して下さり、仲間がどんどん集まりました。

ちょうどお隣は今インスタで発信して人気のレトロな帽子屋さん、集客もバッチリ！と思い店主様に声をかけると、それなら本町1丁目の商店みんなでやろう！と提案してくださいました。1丁目には商工会議所もあり、私たちはコロナになる前には毎月1回、商工会議所前で、「いねん市」という小さなマルシェを行っていたこともあり、話しはどんどん膨らみ、仲のいい町内のおかみさんたちと集まり会議がはじまりました。

今年はコロナで中止の予定だった「花*花フェア」という、商店街で何年も続いているイベントをこのマルシェと一緒にやろうということになり、1丁目だけの話から、本町商店街全部をからめて行うことにとんとん拍子で話がまとまっていきました。

私の願いは、本町通りで食べ歩きや買い物をして、街のなかを端から端まで歩いてほしいということ。1丁目の商工会議所前から7丁目の本町BASEをつなぎ、その間の街の商店が各自でイベント的に商品を作り、スタンプラリーなどで歩けるようにと考えました。

地元の高校生にもお願いして、謎解きラリーで親子で本町を歩いてもらいたい。「ふうめらん」さんに協力をお願いして、高校生も協力をしてくださることになりました。景品は地元のお菓子製造の社長さんが快く提供してくださいました。「こどもの日」が近いので子供たちに喜んでもらうために人気のアニメのコスプレをしてきてくださる方にもお願いしました。ほんとに皆さんのご協力があってやれるイベントです。

イベントの宣伝として、街中をてるてる坊主だてうめつくしたい！イベントの2週間前から各店主が自分のセンスでてるてるぼうずを作って店先に飾り、マルシェの宣伝なども告知したらどうかと、提案しました。街を歩く人から、これ何？って聞かれたら、今度イベントやるから雨降らないように！コロナが収まりますように！の願いを込めてるんですよ！と会話もはずみます。本町通りがてるてる坊主だらけになって、宣伝効果抜群でした。来年はてるてる坊主コンテストもやりたいと思っています。

イベント2日間、雨予報でしたが、町中のてるてる坊主が戦っているかのように、晴れたり降ったり、最後は雨もあがりました。てるてる坊主大作戦大成功！各商店には消毒液を配り、人が集まるイベント会場にはマスクを置き、していない人には声をかけてマスクをしてもらうということもし、密にならないための看板や注意書もつくったり、コロナの感染予防の対策もできるだけさせていただきました。



マルシェにきてくださった方々はそれぞれにきちんとルールなど守ってくださいました。配布したマスクは一枚も使わなくてよかったほど、来場者は全員マスクをしてくださいました。

一人一人がルールを守って、感染予防もし、世の中の経済や楽しみも止めないような、コロナと上手に付き合っていける世の中になることを願います。今年は第1回目の試み。どんどん進化させていきます！

(担当：冬頭映子さん)

11 住み続けられるまちづくりを

